公立大学法人　大分県立芸術文化短期大学

中期目標期間（平成３０～令和５事業年度）の
業務実績に関する
項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和６年７月

大分県地方独立行政法人評価委員会

中期目標期間の業務実績

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 非常に優れている	A 良好	B おおむね良好	C 不十分	D 重大な改善事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、25 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②平成 30 年度から新たにスタートした「アートマネジメントプログラム」については、全学科の学生が受講し、学科の枠を超えた新たな学びの場となっており、教育の質の維持・向上図られていること。

③進路希望調査を複数回行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した就職活動に対応したオンライン面接への対応など進路指導を充実させたことにより、就職内定率、進学合格率とも中期目標の 90%を大きく上回り達成したこと。

④教員が自治体の各種委員に就任し、専門家の立場から助言を行うとともに、教職員と学生が県内各地で様々な活動を行いながら、地域とともに課題の解決に向けた取り組みを行っていること。また、講演、公開レッスン等を県民に開放する、大分県芸術文化スポーツ振興財団や自治体等と連携して芸術文化ゾーンでの新たな展開を図るなど、県民が芸術文化に触れる機会を創出していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○教育の内容及び到達目標

・平成 30 年度から新たにスタートした「アートマネジメントプログラム」については、全学科の学生が受講し、学科の枠を超えた新たな学びの場となっており、他学科との交流を深めたことへの学生の満足度も高い。

・各学科においてディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの点検検証とルーブリックによる学修成果の把握方法についての検証を継続して行い、履修指導等に活用している。

○教育の実施体制

・各学科において、カリキュラムマップを活用するとともに、カリキュラムマップがカリキュラム・ポリシーを反映しているか、学習内容と到達目標に合致しているかについて常に点検し、評価を行う。

・社会情勢の変化や教育ニーズを常に把握しながら、新たなネットワーク開拓を含め地域等との一層の連携を図りながら、学生に対し実践を通した学修活動の場を提供する。

・全学科において、ルーブリック等を活用した成績評価基準モデルの作成し、評価の観点と基準の点検を継続するとともに、教職員の資質向上と教育実施体制の充実に向け、ＦＤ・ＳＤ活動を推進している。

〇学生への支援

・学生支援について情報提供を行う体制を整え、学生からの経済面、心理面からの相談に丁寧に対応するとともに、学生ニーズに対応したハード、ソフト両面からの支援を行う。

・進路希望調査を複数回行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した就職活動に対応したオンライン面接への対応など進路指導を充実させた。就職内定率、進学合格率はいずれも 90％台後半～100％と高い水準を維持している。

・障がいのある学生及び社会人、留学生など、特に配慮が必要な学生からの希望を聴き取り、合理的配慮及び適切な支援を行っている。また、（株）大分銀行、フードバンクおおいたと連携するなど、学修面、生活面から学生を支援している。

〇地域社会への貢献

・県民ニーズ把握のため、受講者アンケート調査を実施しながら、オープンカレッジを開講する。

・教員が自治体の各種委員に就任し、専門家の立場から助言を行うとともに、教職員と学生が県内各地で様々な活動を行いながら、地域とともに課題の解決に向けた取り組みを実施する。

・平成 30 年度の国民文化祭、令和元年度のラグビーワールドカップ大分大会など大規模イベントに教職員・学生が積極的に参画したほか、大分県芸術文化スポーツ振興財団や自治体等と連携し、芸短フェスタなどのイベントで県民が芸術文化に触れる機会を創出している。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
教　育	12			3	9
研　究	6			1	5
社会貢献	6			2	4
その他の目標	1			1	
合　計	25			7	18

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・『アートマネジメントプログラム』は芸術系と人文系を併せ持つ唯一の公立短大として、今のレベルに留まることなく更なる磨きをかけていただきたい。この分野で勝負するくらいの気概を持って質的向上をお願いしたい。

・附属図書館、音楽ホールの一般への開放が、コロナ後にかなり進んだと伺った。素晴らしい設備なので、引き続き沢山の県民に使用してもらえるよう努め、地域社会へ貢献していただきたい。

・教育評価にルーブリックを導入され、「評価項目」「評価の観点」「評価基準」を作成し取り組まれている。さらに、継続的な運用と点検の共有も行っており、高く評価できる。

・大学におけるカリキュラムやコースのあり方検討は、一般的には現有の教員が異動（定年退職、他大学への異動、転職、辞職ほか）の際に生じる短期公募型や類似領域分野後追い型公募が一般的だが、昨今、先導的な知的・創造的イノベーションを社会的に期待される大学機関では、むしろ段階的な大学のミッションの再定義や組織の改変・組織替えを先んじて構想しながら必要な人材を時間をかけて公募するという方法もありうる。さらに大学教員人材の流動化も社会兆候として生じており、大分県立芸術文化短期大学も旧来の美術と音楽に基づく「芸術大学」の存在意義のみならず、より幅広いアート系（アートプロジェクト、ソーシャリーエンゲージドアート、アートマネジメントをはじめ）、イノベーション系（知的財産、ソーシャルイノベーションをはじめ）、ものづくり系、表現メディア系、社会実装・実践型、知の拠点、短期大学、創造県大分への社会貢献・社会連携、大学コンソーシアム、といった期待へ応えるべく教育内部質の保証を進めるための３ポリシーを明確化されたうえで、次世代へ向けたカリキュラムやコー

スのあり方を果敢に創出していただきたい。

・すでに令和３年度に構築したルーブリック評価に関して、試験的に運用し、その効果や問題点・課題等について情報共有し今後取り組むべき課題を抽出した、との重要な検討を踏まえておられるなら、アートマネジメント講座の創出やサービスラーニングによる分野横断型の総合化カリキュラムをさらに次世代社会が目指しているDX化、GX化、脱炭素化社会、地球温暖化現象克服へ向け、どのような能力形成を導くためのカリキュラムや新コース構築が求められているのか、果敢に構想を打ち出していただきたい。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 非常に優れている	A 良好	B おおむね良好	C 不十分	D 重大な改善事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、7 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②理事長兼学長のもと、幹部会議や学内委員会のマネジメント機能の強化を図り、迅速かつ機動的な意思決定を行うとともに、教員の採用については、学生や時代のニーズを踏まえて教育研究分野を決定し採用を行っていること。

③予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、重点事項を定め、着実に推進していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○運営体制

・理事長兼学長のもと、幹部会議や学内委員会のマネジメント機能の強化を図り、迅速かつ機動的な意思決定を行っている。新型コロナウイルス感染症対策では、随時、危機管理対策本部会議及び幹事会を開催し、情報共有を図りながら迅速に意思決定し、適切に対応した。

・学内内部統制を図る体制を整備するとともにネットワーク整備を行い、安全性を確保しながら情報メディアを用いた事務改善を推進している。

○人事の適正化

・定年退職等に伴う教員の採用については、学生や時代のニーズを踏まえて教育研究分野を決定し採用するとともに、事務職員を外部研修に参加させ人材育成を行っている。

・教職員対象の内部研修の実施のほか、外部研修への積極的な参加とそこで得られた成果をＦＤ・ＳＤ推進室を通して共有するとともに、教員評価制度を活用したモチベーション向上に取り組んでいる。

○業務の選択と集中

・予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、「大学の一層の魅力アップ」「地域社会への新たな貢献」「学生の進路支援及び志願者の確保」「優位な時運材の確保と財務状況の見直し」の４つの重点事項を定め、着実に推進している。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			2	1
事業の選択と集中	1				1
合　計	7			5	2

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・理事長（学長）のリーダーシップのもと、大学の運営は適切に行われてきたと評価する。
・教員が学外委員に就任し、視野の拡大に努めて、大学運営に反映させていることは高く評価できる。
・これまでの、大分県民をはじめ地域社会からのニーズを吸い上げる「公聴」手法や、その結果が十分であったかどうか。これまで学長を軸とする活動、学内教員の先生方が求められて行われる学外委員としての活動が主たる情報源とのことであるが、必要ならさらなる「公聴」手法を開発する必要もある。自己評価ならびに外部評価、さらに教職員、卒業生、保護者へ行われたアンケートの結果分析を合わせ、本学への社会的ニーズを冷静に把握し分析評価することが肝要である。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 非常に優れている	A 良好	B おおむね良好	C 不十分	D 重大な改善事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、8 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②全教職員への経費節減の周知や夏期大学閉鎖による光熱水費の節減や、省電力機器の導入、契約内容の見直しなど、管理的経費の分析と抑制策の検討などを行っていること。

③大学独自の研究費特別枠を設定し、外部研究資金獲得に向けた準備研究を支援するとともに、科研費を申請する教員を事務局職員が支援し、外部競争資金や受託事業の獲得に取り組んでいること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○事務等の効率化及び経費の抑制

・全教職員への経費節減の周知や夏期大学閉鎖などの取組を行っている。

・リース契約更新時において耐用年数を踏まえて再リース契約するなど、契約内容や仕様を精査し、経費の抑制を図った。

○自己収入及び外部資金の獲得

・新型コロナウイルス感染防止対策を実施しながら、公開講座や新たに導入した個人レッスンチケット制等の広報に努め、自己収入の拡大を図る。

・整備が完了した施設の貸出基準を整備し、授業に支障のない範囲で大学施設の適正な貸し出しを行い、自己収入の確保に努めている。

・大学独自の研究費特別枠を設定し、自主的な研究を支援した。
30 年度：5 件、元年度：8 件、2 年度：8 件、3 年度：4 件、4 年度：3 件、5 年度：4 件

・上記の研究費特別枠を継続し、外部研究資金獲得に向けた準備研究を支援するとともに、研究者と事務職員との連携体制を整えるなど、組織的に外部競争資金や受託事業の獲得に取り組んでいる。

○資産の適正管理及び有効活用

・新たに整備した資産（土地、建物、設備）及び資金を適正に管理する。

・安全・防犯対策を講じ、感染防止に配慮しながら施設を開放し、地域社会に貢献している。令和５年度には視覚障がいのある学生の安全のため、点字ブロックの設置等の対策を行った。

・芸短ギャラリーで美術科収蔵作品を展示するなど、大学の研究資源を有効に管理・運用するほか、知的財産について積極的に公開するとともに、教育研究活動における知的財産に関する相談を広く受け付け、適切な支援を行っている。
・産学官連携プロジェクトについては、契約書案の作成及びリーガルチェックを行うことで社会貢献活動を支援している。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
事務効率化・経費抑制	2			1	1
自己収入・外部研究資金の獲得	3				3
資産の適正管理・有効活用	3			3	
合　計	8			4	4

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。
※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・経費削減の努力と併せ、外部資金の取入れについても取り組んでいることを評価する。
・近年、電気、ガス、水道の公共料金が値上げされている。水道光熱費の削減に努めていただきたい。
・大学運営コスト削減への取り組み、公開講座開講等自己収入の確保に取り組んでいることは高く評価できる。
・全教職員のコスト意識を向上させることで全学的な省エネルギー・省資源に関する意識の向上が図られていることは重要である。今後は教職員及び学生が自分ごととして大学施設管理運営費用を理解できるようなシステム（視覚的に理解できるようなエネルギー利用状況パネル、二酸化炭素減少状況パネルなど・・・）を設けると同時に、施設管理上からの発想だけではなく、地球環境・地球温暖化現象への負荷を減らす、カーボンニュートラルへの貢献、再生型自然エネルギーへ

の転換・・・など、芸術文化大学ならではのデザイン思考・アート思考を反映させる創意工夫も示しながら段階的に進めていただきたい。

Ⅳ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 非常に優れている	A 良好	B おおむね良好	C 不十分	D 重大な改善事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、３項目のすべてがⅢ（順調に実施している）であること。
②大学基準協会による認証評価に向けて、自己点検・評価を行うなど、滞りなく準備を進めたこと。またその認証評価が、短期大学基準に適合しているとの結果であったとともに、改善が必要な事項への対応等を検討していること。
③法人運営の透明性を高め、県民に対する説明責任を果たすため、計画や財務運営状況等の法人情報を毎年公開していること。
④マスメディア等多様な媒体を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○自己点検及び自己評価の充実
・令和４年度の大学基準協会による認証評価に向けて、自己点検・評価を行うなど準備を進め、短期大学基準に適合しているとの認証評価を受けた。また、評価結果において改善が必要とされた事項への対応を検討している。
○情報公開や情報発信の推進
・法人運営の透明性を高め、県民に対する説明責任を果たすため、計画や財務運営状況等の法人情報を毎年公開している。
・年４回の広報誌発行やマスメディアを活用した積極的な広報に努めるとともに、芸短フェスタイベント等を実施し、ホームページや SNS によるニュース等の投稿で、大学の魅力をアピールしている。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
自己点検・自己評価	1			1	
情報公開・情報発信	2			2	
合　計	3			3	

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・これまでのブランド・アイデンティティ構築に向けた全学のご努力を評価したい。

・ＨＰの更新、積極的な情報発信に努めている。さらに、ブランド・アイデンティティに取り組む目標は素晴らしい。ぜひ成功してほしい。

・本学の魅力アップへ向けた取り組みとしてブランド・アイデンティティ「大分県立芸術文化短期大学は、感性と知性を融合させ、新たな視点で地域・社会の未来を開きます」を確認、今後へ向け幅広く広報作戦を練り上げておられるが、そこまでの長年にわたる学内での努力奮迅には敬意を表する。がしかし、こうした取り組みの目標が「本学の知名度を高める」にとどまるのはもったいない。むしろデザイン思考ならびにアート思考を存分に発揮しながら「感性と知性を融合」させることで生まれる具体的な成果を用いて取り組むべき目標が、眼前に広がる大分県の地域課題や社会問題解決へ向けて果敢に挑戦することではないのか。そうした取り組みへ向けた姿勢や態度を学生諸君へ涵養するのが本学の教育研究ならびに地域貢献や社会還元の目標ではないのか。「本学の知名度を高める」という目標は目先の受験生獲得や県内ニーズとの出会いへ向け矮小化されてはいないか、と案じる。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 非常に優れている	A 良好	B おおむね良好	C 不十分	D 重大な改善事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、6 項中 5 項目がⅢ（順調に実施している）、1 項目がⅡ（十分に実施できていない）であること。

②人権侵害や各種ハラスメントの防止に取り組んでいたものの、令和４年度に教員から学生に対するハラスメント事案が確認されたこと。しかしながら、ハラスメント事案発生後は、真摯に再発防止に努めたこと。

②令和３年３月に予定通りキャンパス整備事業を完了したこと。また、整備した施設・設備を適正に管理・運営していること。

③教務学生システムの情報セキュリティ上の点検や、オンライン授業・会議で用いるツールの安全性確認に加え、操作方法や情報セキュリティに対する意識向上に向けた研修等を継続的に開催していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○施設・設備の整備と活用

・学生の安全と学修環境へ配慮しながら、令和３年３月に予定通りキャンパス整備事業を完了した。

・整備した施設・設備について、各種維持管理契約を締結し、委託業者と連携しながら適正に管理・運営した。

・オンライン授業に必要な設備の設置のほか、施設・設備の計画的な整備や日常的な修繕を適宜行っている。

○大学の安全管理

・「防災・業務継続計画」に基づき、危機管理における体制整備、毎年度、全学を上げた防災訓練を実施した。新型コロナウイルス感染症に組織的に対応することでクラスターの発生を防止した。

○情報セキュリティの確保

・教務学生システムの情報セキュリティ上の問題等について点検、オンライン授業や会議で用いる Zoom や C-learning の安全性を確認するとともに、操作方法や情報セキュリティについて学生や職員に周知している。

○人権尊重の推進

・令和４年度に教員から学生に対するハラスメント事案が確認されたため、懲戒等審査会を

設置のうえ、調査し、適切に懲戒処分を行った。
・ハラスメント対策を強化するため、学生の個別指導における注意点に関するガイドライン、ハラスメント等人権侵害防止規程及び同運用指針を改正した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
施設・設備の整備と活用	2			2	
安全管理	1			1	
情報セキュリティ	1			1	
人権尊重の推進	2		1	1	
合　計	6		1	5	

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。
※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・Ｒ４に発覚したハラスメント事案に対して理事長（学長）がリーダーシップを発揮してハラスメントの防止、服務規律の保持、学生への個別指導に関するガイドラインの周知徹底、各種規程の改正等の対応を行い、再発防止に努めた。決してあってはならない事案であったが、きちっとした対応がなされているということを斟酌すれば、Ｂ〈おおむね良好〉で良いと考える。
・教員から学生に対するハラスメント事案については、懲戒等審査会を設置の上、調査し適切に懲戒処分を行ったとの事。繰り返しになるが、大学としてあってはならない事案なので、緊張感を持って再発防止を徹底し、信頼回復に努めていただきたい。
・令和４年に確認されたハラスメント事案は非常に残念なことであるが、令和４年と令和５年において、適切な対応を取っている。またその他の項目においては小項目でⅢの評価が多く、総合的にみてＢ：おおむね良好と判断できる。
・事故発生からの取り組みを評価する。ハラスメントは許さないというトップの姿勢が最も大切かと思う。構造的にハラスメントが発生しやすいかとも思われるので、２度と起こさない、許さないという姿勢を持ち続けてほしい。
・長年にわたり培った大学イメージや地域社会との信頼関係が一挙に崩れてしまう

ような学内で生じた事案へ対応しながら、今後へ向け各種ハラスメントの防止を図る努力がなされている、と示されたことを今後は鋭意実践される中、イメージ刷新や捲土重来をはかっていただきたい。

２　全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として中期計画の達成状況が良好である。

判断理由

①　大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはＳ評価（非常に優れている）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」及び「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」についてはいずれの項目もＡ評価（良好である）であり、「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」はＢ評価（おおむね良好である）であること。

②　「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、平成 30 年度から新たにスタートした「アートマネジメントプログラム」については、全学科の学生が受講し、学科の枠を超えた新たな学びの場となっていること。また、進路希望調査を複数回行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した就職活動に対応したオンライン面接への対応など進路指導を充実させることにより、就職内定率、進学合格率とも中期目標の 90%を達成したこと。

③　「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」に関して、全教職員への経費節減の周知や夏期大学閉鎖による光熱水費の節減や、省電力機器の導入、管理的経費の分析と抑制策の検討などを行っていること。大学独自の研究費特別枠を設定し、外部研究資金獲得に向けた準備研究を支援するとともに、科研費を申請する教員を事務局職員が支援し、外部競争資金や受託事業の獲得に取り組んでいること。

④　「Ⅴ　その他業務運営に関する目標」に関して、人権侵害や各種ハラスメントの防止に取り組んでいたものの、教員から学生に対するハラスメント事案が確認されたこと。しかしながら、ハラスメント事案発生後は、真摯に再発防止に努め、令和５事業年度は「Ａ（計画どおり）」と評価したこと。

＜委員会からのコメント＞

〇全体として中期計画の達成状況は良好と評価する。

〇ハラスメント事案はあってはならないことであった。ただ、その後本事案の反省を踏まえ、全学一丸となって対応されてきたことは評価したい。今後とも、決してタガが緩むことなく、健全な環境を整備することに注力していただきたい。

〇マイクロカルチャーに溢れる大分県の多様性のもと、美術・音楽の芸術に加え国際コミュニケーションや観光、心理学や社会学、情報メディアなど特色のある学科を同一キャンパス内に設置する特徴的な「芸短」で、学生ひとりひとりの感性を磨き上げ、海外へも積極的に発信できる有為で視野の広い人材を育成していただきたい。

〇全教職員が一丸となり、芸術短期大学のアイデンティティを作り上げていこうという姿勢が見えてきた。道半ばでこれからと思いますが、応援している。

〇本学の魅力アップへ向けた取り組みとしてブランド・アイデンティティ「大分県立芸術文化短期大学は、感性と知性を融合させ、新たな視点で地域・社会の未来を開きます」が提示されている。長年にわたる学内での努力奮迅には敬意を表する。がしかし、こうした取り組みの目標が「本学の知名度を高める」にとどまるのはもったいない。むしろデザイン思考ならびにアート思考を存分に発揮しながら「感性と知性を融合」させることで生まれる具体的な成果を用いて取り組むべき目標が、眼前に広がる大分県の高齢化・少子化・人口減少・過疎化といった根深い地域課題や地域間格差、経済格差、教育格差、ジェンダー問題やLGBT、ソーシャル・インクルーシブ面からの社会問題の解決等へ向け果敢に挑戦していただきたい。そうした取り組みへ向けた姿勢や態度を学生諸君へ涵養するのが本学の教育研究ならびに地域貢献や社会還元の目標として重要な意味を持つ。さらにデザイン思考ならびにアート思考を発揮することで、地球環境・地球温暖化現象への負荷を減らす、カーボンニュートラルへの貢献、再生型自然エネルギーへの転換・・・など、芸術文化大学ならではの教育研究への創意工夫に満ちたカリキュラムやプログラムづくりが可能である。

【参考：大項目評価の結果】

Ⅰ 教育研究等 の質の向上	**S 非常に優れ ている**	A 良好	B おおむね 良好	C 不十分	D 重大な改善 事項あり
Ⅱ 業務運営の 改善及び 効率化	S 非常に優れ ている	**A 良好**	B おおむね 良好	C 不十分	D 重大な改善 事項あり
Ⅲ 財務内容の 改善	S 非常に優れ ている	**A 良好**	B おおむね 良好	C 不十分	D 重大な改善 事項あり
Ⅳ 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 非常に優れ ている	**A 良好**	B おおむね 良好	C 不十分	D 重大な改善 事項あり
Ⅴ その他業務 運営	S 非常に優れ ている	A 良好	**B おおむね 良好**	C 不十分	D 重大な改善 事項あり